

* 第4回寄稿原稿

くすり文化 -くすりに由来する(or 纏わる)事柄・出来事-



八野芳己

(Hachino Yoshimi, Ph.D. 元兵庫医療大学薬学部教授)

(2)大和時代(4世紀半ば~600頃) ⇒ 飛鳥・奈良時代(600~794)から平安時代(794~1185)

【時代考証^(1,2)】

「人と薬のあゆみ-年表 www.eisai.co.jp > museum > history⁽¹⁾」と「奈良県薬業史略年表⁽²⁾」をまとめる。

約 210	「傷寒論」「神農本草経」できる (中国)
414	新羅から 金武来日 、外国医術初めて公に伝わる。 ・允恭(インギョウ)天皇3年(414):新羅(シラギ)に良医の派遣を乞い、 金武が来日 して天皇の病気を治療したといわれている。このときに大陸医学(中国医学)による治療法と薬物がもたらされた。
大和 (4世紀半 ば~600年 頃)	459 (雄略天皇3年) 高麗の医師・ 徳来、来日し難波に住む 。子孫代々医を業とし「 難波の薬師 」と称せられる。 ・雄略天皇3年(459)には 百済の医師徳来が来日 して、難波の地に住みつき、代々医業にたずさわった。 これが難波の薬師(クスシ)の始まり とされる。
538	仏教が正式に伝来した。
554	百済から 採薬師、播量豊、丁有陀来日 採薬師渡来のはじめ。
562	漢方書などが伝来した。
593 (推古天皇元年)	聖徳太子、 浪華に四天王寺をたて、療病院、施薬院、悲田院、敬田院 を併置、 難民に医療救恤を行う 。・聖徳太子(厩戸皇子、ウマヤドノオウジ)は、「 薬草は民を養う要物なり。厚く之を畜うべし 」と、勅命をもって薬草の採取貯蔵を奨励した。
607	小野妹子を隋に派遣
608	薬師恵日 、倭漢直福因が遣隋使小野妹子に随行し医術を学ぶ。外国に医術を学んだはじめ。
611	5月5日天皇が百官をひきいて、大和 荒田野に薬猟 をした。これから5月5日を、「 薬日 」として、薬猟の恒例日とした。
飛鳥 (592-645)	623 薬師恵日、倭漢直福因が唐から帰国。これから隋唐の医方が起こった。 630~894 ・遣隋使(630~、5回)に引き続いて、遣唐使(630~894、19回)が直接中国大陸に派遣され、仏教の戒律、律令制度、都市計画など、大陸の華麗な先進文化が続々ともたらされた。医薬の分野についても同様で、遣唐使の渡航者の中には、唐の医学を学びその術技に長じたのち、帰国した者もあらわれている。 薬物に精通した高僧鑑真(ガンジン)が来日 したのも、正倉院に現存するような薬物や隋、唐の 医書、薬物書が渡来したのもこの頃 である。
634	役小角(役行者)出生と伝える。
645	真人・知聡の子・孫思邈が「千金方」30巻、「千金翼方」30巻を著した。(中国) 大化改新